

東濃厚生病院だより



第64号

JA岐阜厚生連 19年4月発行

理念

歩みいる者にやすらぎを
去り行く人に幸せを

私たちは地域の皆様に愛され、親しまれ、
そして信頼される病院を目指します。

行動目標

1. 私たちは日々研鑽に励み、患者さんの立場にたった質の高い医療の提供に努めます。
2. 全職員が患者さんの窓口となり、真心と笑顔で患者さんに接します。
3. 患者さんの言葉を最後まで聴き、患者さんが理解できるよう分かりやすい言葉で説明します。

編集／東濃厚生病院広報委員会

すこやか



4月新人看護師

就任のご挨拶

事務局長

佐藤 義勝



四月一日の人事異動により事務局長を拝命しました佐藤と申します。

昨今の医療を取り巻く環境が非常に厳しい中、責任の重さを痛感しております。平石院長の下職員一同一致団結して、病院の理念にあるように地域の皆様から愛され、親しまれ、そして信頼される病院となるよう努力してまいります。

現在当院は、建物等のハード面においてはほぼ完了しております。今後は院内体制等のソフト面を充実することが課題と考えております。

まず、今年四月一日より全国的な看護師不足の中、看護部の努力により七対一看護の施設基準をJ A岐阜厚生連病院では最初に取得いたしました。今後は看護師確保をしっかりと行い維持していくことが大切と考えております。また、現在D P C準備病院としてデータを厚生労働省に提出しております。平成二十年度のD P C参加募集があれば参加を検討していきたいと思えます。さらに、医薬分業についても平成二十年度の医療費改定により薬価の引き下げにより院内処方への移行時期について引き続き検討していきたいと思えます。

今後とも皆様のご協力をお願いします。



二十年が過ぎて、あと十年。

外科

今澤 正彦



あなたが「外科医の気質が最近変わってきた」と感じるならば、その感覚は鋭いかも知れない。何故ならば、社団法人日本外科学会が昨年十一月に同学会員の二、二七六人にアンケートした結果を報道の伝えるところ・・・。

全体の勤務時間は週五九・五時間(開業医四七・七時間、勤務医六八・八時間で、労働基準法の定める週四十時間を超過し、多くの外科医が不満を持っていた。当直の明けた日の手術を、三十一%が「いつも」、二八%が「しばしば」、十三%が「まれに」など計七十二%の外科医(特に二十〜四十歳代では約九十%)が行っていて、「当直明けに手術をしない」のは二%。「判決」・「和解」を含めて医療訴訟を十%が経験、「示談」を十一%が、「訴訟準備などの具体的な行動」を十五%が、「患者や家族とのトラブル」を三八%が経験していて、八五%が「訴訟が治療に影響を与える」と回答。激務の背景には、個々の手術時間自体の延長している上に手術件数も増加しているのに外科医数の減っていることが在るが、新しく外科医になる人は既に二十年前から減り続けている。この様に志望者の減る理由(複数回答)として、「労働時間の長さ」「時間外勤務の多さ」が七十二%を占めた他、「医療事故、訴訟リスクの高さ」が挙げられた。八九%が「精神的負担の有る職場」と考えており、「社会的評価の高い仕事」と受け止めたのは五二%。門田守人学会長(阪大教授)は、「外科の職場環境は悪化の一途。このままでは、十年後、外科を志望する医学生が居なくなる」「過重労働や当直明け手術は、医療の質や安全性の観点からも問題だ。医師が訴訟に対し防衛的になれば、治療の選択肢が狭まり、患者への影響も大きい。国は医療費抑制の方針を抜本的に見直し、医師数の増加や過重労働の是正に乗り出して欲しい」「辛い職場を避ける傾向があり、医師が社会的責務に鈍感だという問題も有る。医療の崩壊を食い止めるため、社会が一体となって方策を考えてほしい」との旨をコメントした。

・・・産科・小児科医療や救急医療などの窮状は社会に認識されてきたが、外科医療も決して例外ではないのだ。とかく「体育会系のタフな何でも屋さん」と見做されることを最早欲びもせず、新たな方向を模索し始めた外科医らの姿が見えてくる。こんな逆風の中で現場のレベルとして今大切な事は、業務を如何に効率的に出来るかであり、何が必要で何が不要かを見直す習慣が大切になるのだが、周囲もこの変化に柔軟で居ないと、現場の崩壊が進みかねない。

難聴について

愛知医科大学耳鼻咽喉科 教授

岩崎 聡

はじめまして、これから耳鼻咽喉科診療をお手伝いすることになりました岩崎 聡と申します。今回は自己紹介を含めて難聴に対する現状をお話します。

難聴というと補聴器を思い浮かべると思いますが、直接補聴器店やメガネ店で購入される場合があるようですが、最近法律が改正されたことで補聴器に関わる事情が変わってきました。いわゆる資格制度が出来ました。補聴器店のなかでも研修や試験を受けて合格した方は「認定補聴技能者」に、設備が整った店は「認定補聴器専門店」の資格が得られるようになりました。また、耳鼻科医の中でも補聴器の研修を受けた者は「日本耳鼻咽喉科補聴器相談医」の認定を得ています。「クーリングオフ制度」といって補聴器を購入する時、この契約を交わしていなければ無料で補聴器の返却ができるようになりました。したがって、今後補聴器を購入する時は日本耳鼻咽喉科補聴器相談医（ちなみに私はそうです）か、または認定補聴器専門店に相談するようにしてください。

次に難聴の最新情報をご紹介します。これまで難聴の診断は、病院で聞こえたらボタンを押す聴力検査にて行われてきました。最近では難聴の遺伝子診断が可能となり、原因不明とされた難聴（特に感音難聴）の原因を詳細に説明でき、今後進行するのかわからないのか、また予防することもできます。血液を採って調べますが、どの病院でもできるわけではありません。希望がありましたら、まず東濃厚生病院耳鼻科を受診して、指示を受けてください。

難聴の治療に関しても目覚ましい進歩がみられています。その一つが人工聴覚手術です。これまでの治療法で直せなかった難聴を良くすることができます。たとえば高度な難聴になりますと補聴器でも聞き取りが困難となります。しかし、あきらめる必要はありません。人工内耳があります。一歳半から八十六歳までの方が受けて、社会復帰されています。保険診療で受けられ、経済的負担もありません。その他、片耳だけが高度難聴の方や外耳道閉鎖症や中耳炎の手術を受けても良くならない方やまたは受けられない方には骨固定型骨導補聴器（BAHA手術）があります。一泊二日の入院で一時間弱の手術です。米国では一年間に三、〇〇〇〜四、〇〇〇人の方が受けています。いずれも、まずは東濃厚生病院耳鼻科を受診して相談してみてください。担当医がしっかりと説明いたします。

最後に、難聴の医療は目覚ましい速さで進歩しています。けっしてあきらめてはいけません。専門医にたどり着くことが重要です。気軽に相談してください。

人間ドック・健診施設機能評価認定取得

健康管理センター

当院は、平成十七年八月二十二日付にて財団法人日本医療評価機構から、地域が必要とする各領域の医療において、基幹的・中心的な役割を担い、高次の医療にも対応しうる一定の規模を有する病院として認定を受けました。

健康管理センターでも、第三者の評価を受けて質の改善及び受診者が安心して健診を受けられることを目的に、昨年より準備を進め、平成十九年二月二十四日付で、日本人間ドック学会より、第一四一号として認定を受けました。岐阜県では三番目に認定を受けた施設となります。

予防の医療が注目されている中、皆様の健康管理のお手伝いをするため、更に努力をまいります。多くの人が病気にたいして無防備で、はつきりとした予防策を講じないまま病気を進行させてしまうことがよくあります。生活習慣病はもとより、自己の健康状態を知る為にも定期的に健康診断を受けられることをお勧めします。

健診・ドックのお問い合わせ先

東濃厚生病院 健康管理センター

TEL 〇五七二一六八一四四二六（直通）
FAX 〇五七二一六八一九四五八

